

医療における社会・行動科学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 香川 由美 助教		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	1	区分/単位数	講義/1単位
期間	前期		

・学修方針(講義概要等)

本科目では、医療と保健の現場で用いられている行動科学の理論とモデルについて概説する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得することは、医療と保健の現場において対象者の課題についてロジックを立てて理解し、効果的にサポートすることに役立つ。また、医師、歯科医師、薬剤師、看護職が共通の行動科学理論を理解することは、チーム医療を効果的に実施する上で極めて重要である。行動科学モデルを種々の場面で応用するための基礎を修得する。

・教育成果(アウトカム)

人の行動や意思決定に関わる社会的要因、文化要因、心理的要因、およびそれら要因間の相互作用に関する知識を会得し、行動科学理論の医療への応用方法を理解することにより、医療人として患者と対応する際に、患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できるようにする。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。

・到達目標(SBO)

- 1.医療における行動科学の役割を説明できる。
- 2.社会、文化、心理的要因により健康観が異なることを理解できる。
- 3.健康と病気に関する諸要因について説明できる。
- 4.保健行動の実行を支える諸条件を列挙できる。
- 5.ストレスとコーピングについて説明できる。
- 6.保健行動に関する主要な行動科学モデルを説明できる。
- 7.健康に関わるエンパワーメントとライフスキルについて説明できる。
- 8.ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーションについて説明できる。
- 9.行動科学モデルを、個人、集団、医療など、種々の場面に応用できることを理解できる。

・授業日程

【講義】

会場：西1-A講義室

月日 曜日 時限	授業内容/到達目標	担当教員
4/19 (金) 2限	【授業内容】 行動科学と健康 1. 行動科学の学問的背景について説明できる。 2. 医療における行動科学の役割を説明できる。 3. さまざまな健康観について説明できる。 4. 健康教育の歴史を概説できる。 【関連するSBO】 1, 2 【事前学修:40分】 健康とはどのような状態をいうのか自分の考えをまとめておく。 【事後学修:50分】 講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。	心理学・行動科学分野 香川 由美 助教

<p>5/10 (金) 2限</p>	<p>【授業内容】健康と病気に関わる諸要因 【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1. 生活習慣と健康の関連について説明できる。 2. 環境と健康の関連について説明できる。 3. ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタルの健康への関わりを説明できる。 4. 社会経済的格差と健康の関わりについて説明できる。 【関連するSBO】3, 4 【事前学修:40分】講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 【事後学修:50分】講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>	<p>心理学・行動科学分野 香川 由美 助教</p>
<p>5/17 (金) 2限</p>	<p>【授業内容】保健行動論(1) 【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1. 保健行動の種類を説明できる。 2. 自己効力感について説明できる。 4. ストレスの原因と評価について説明できる。 5. コーピングの種類と方法について説明できる。 【関連するSBO】4, 5 【事前学修:40分】講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 【事後学修:50分】講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>	<p>心理学・行動科学分野 香川 由美 助教</p>
<p>5/24 (金) 2限</p>	<p>【授業内容】保健行動論(2) 【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1. 保健行動に関わる社会的要因について説明できる。 2. 保健行動に関わる心理的要因について説明できる。 3. ヘルス・ビリーフ・モデルについて説明できる。 4. ローカス・オブ・コントロールについて説明できる。 【関連するSBO】4, 6 【事前学修:40分】講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 【事後学修:50分】講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>	<p>心理学・行動科学分野 香川 由美 助教</p>
<p>6/14 (金) 2限</p>	<p>【授業内容】保健行動論(3) 【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1. 感情状態と意志決定の関わりについて説明できる。 2. 認知バイアスについて説明できる。 3. 計画的行動理論について説明できる。 4. トランスセオレティカル・モデルについて説明できる。 【関連するSBO】4, 6 【事前学修:40分】講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 【事後学修:50分】講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>	<p>心理学・行動科学分野 香川 由美 助教</p>
<p>6/21 (金) 1限</p>	<p>【授業内容】総合的協働型健康づくり 【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1. プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションについて説明できる。 2. プリシード・フレームワークについて説明できる。 3. プリシード・プロシード・モデルについて説明できる。 4. QOLの種類と評価について説明できる。 5. ナッジについて説明できる。 【関連するSBO】3, 4 【事前学修:40分】講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 【事後学修:50分】講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>	<p>心理学・行動科学分野 香川 由美 助教</p>
<p>6/26 (金) 1限</p>	<p>【授業内容】健康に関わるエンパワーメントとライフスキル 【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1. ヘルスプロモーションにおけるエンパワーメント教育の役割について説明できる。 3. WHOの定義するライフスキルを列挙できる。 4 代表的なライフスキル教育について説明できる。 【関連するSBO】7 【事前学修:40分】講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 【事後学修:50分】講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>	<p>心理学・行動科学分野 香川 由美 助教</p>
<p>7/9 (火) 4限</p>	<p>【授業内容】ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション 【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1. ヘルスリテラシーの定義について説明できる。 2. ヘルスリテラシーの種類を列挙できる。 3. ヘルスリテラシーの健康への影響について説明できる。 4. ヘルスコミュニケーションについて説明できる。 【関連するSBO】8, 9 【事前学修:40分】講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 【事後学修:50分】講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。 また、これまでの講義内容を総復習して、WebClassの確認テストの準備とレポート作成に取り組む(5時間程度)。さらに、定期試験前の準備を行う(12時間程度)。</p>	<p>心理学・行動科学分野 香川 由美 助教</p>

・教科書・参考書等

教科書・参考書等		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	行動科学－健康づくりのための理論と応用 改訂第2版	畑栄一	南江堂	2009
参	健康行動学:その理論、研究、実践の最新動向	木原雅子ほか(訳)	イブニング・サイエンス・インターナショナル	2018
参	健康行動理論による研究と実践	日本健康教育学会編	医学書院	2019

・成績評価方法

<p>【総括評価】 前期定期試験成績(80%)、レポート(10%)、確認テスト成績(10%)で評価する。レポート課題は講義時に評価基準と共に提示し、基準に基づいて評価する。</p> <p>【形成評価】 講義毎に理解度チェックをWebClassで実施し、理解度、到達度を確認する。結果はWebClassからフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。</p>

・特記事項・その他

<p>【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】</p> <p>本科目では、一般的な講義に加えて双方向授業を適宜取り入れて課題に取り組む。講義で取り上げた課題については、講義内で解説する。事後学修として、各回講義の学修内容について理解度チェックを行い、WebClassに提出する。各問題の正答とポイントはWebClassにてフィードバックする。 確認テストを最終日にWebClassで実施する。</p> <p>事前学修:シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、授業で取り上げる内容に関わるキーワードについて教科書等を用いて調べまとめる。 事後学修:講義内容を復習したうえで理解度チェックを行い、理解が不十分であった事項については配布資料、教科書等を用いて理解を深める。 各コマに対して、事前・事後学修に90分以上を要する。更に、レポート作成と確認テスト準備に5時間程度、前期定期試験前には12時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。</p> <p>定期試験後にフィードバックとして補講等を実施する。</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):専門基礎分野 健康支援と社会保障制度</p>

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC (Surface pro FJY-00014)	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型PC(EPSON MR4800E)	1	講義資料の作成
講義	書画カメラ・DVDプレーヤセット	1	講義資料の提示